

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	グループホーム なごみ 春ヶ丘		
所在地	〒802-0803 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5番1号	093-931-5961	
自己評価作成日	平成26年01月28日	評価結果確定日	平成26年03月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より地域とのかかわりを大切に、地域及び町内から孤立することなく運営しています。認知症を患い、不安になることもある入居者様を町内の方々も良く理解していただいております。町内のイベントや、施設側のイベントにも多くの交流が行っております。また、日々の生活において、散歩時にも笑顔で入居者様自ら町内の方々にあいさつを交わす姿が見られるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なごみ春ヶ丘」は、病院や消防署、区役所、大学等の一角に位置し、2階建て1ユニットのグループホームである。家庭的な雰囲気の玄関を通り、リビングルームに行くと、利用者と職員の元気で明るい声が聞こえ、利用者の笑顔の表情が印象的である。自治会に加入し、利用者と職員は、地域の行事や活動に参加し、ホームで開催される「秋刀魚バーベキュー大会」では、地域の方が、会場やテント設営に協力してもらい、沢山の参加者で地域交流の輪が大きく広がっている。かかりつけ医と協力医療機関を活用し、24時間の往診体制を確立し、充実した医療連携が整い、利用者や家族の思いを尊重した、看取り支援に繋がっている。また、管理者は、家族と信頼関係を築き、悩みや心配事の相談に一緒に考え、解決に向けて取り組み、家族の評価は高いものがある「なごみ春ヶ丘」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年02月25日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活に密着した「理念」を掲げており、職員一同しっかり理解し、仕事に活かしている。	ホーム独自の理念を掲げ、職員は、理念を明示した冊子を持ち、職員の笑顔が利用者に伝わり、自然の中で普通の暮らしを支援することを、職員一人ひとりが意識し、利用者本位の、介護の実践に取り組んでいる。また、職員は、仕事で悩んだり、迷ったりした時には、理念を振り返り、初心に戻っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設時より地域密着を踏まえ、町内と接しており、多くの町内行事にも参加している。	管理者は、地域密着型事業所の意義を理解し、地域と理解し、協力し合うことを大切に、組長を引き受け、夜間の見回りや、小学校の下校時の交通当番に参加し、地域の高齢者の介護相談や、独居老人の安否確認を行っている。また、毎年秋に開催するホームの地域交流会には、参加者が多く、信頼関係が築かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からも認知症についての問い合わせにも気軽に訪ねて頂けるように日々努力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、毎回多くの方々に参加して頂き、施設の現状や、生活ぶりを見て頂き、意見や感想をサービス向上に活かしている。	会議は年6回開催し、外部の参加者が多く、ホームの現状や取り組み、課題等を報告し、外部の第三者からの目を通して、質問や要望、情報提供等を出してもらい、活発な会議である。出された意見や要望を、ホームの業務改善や、運営に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小倉南統括からの入居紹介の方もいる為、頻りに役所からの訪問もあり、協力関係を築いている。	区役所の介護保険課が近くにあるので、管理者は、困難事例や疑問点を相談に出向き、行政職員の訪問もあり、協力関係を築いている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解した上で、アドバイスをもらう等、情報を共有し連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全てにおいて施錠することなく生活しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や勉強会の中で、職員は、身体拘束の具体的な行為やその弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員間で話し合い、注意し合っており、また、玄関の鍵は、日中は施錠せず、利用者が自由に出入り出来るようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が互いに気を付け、施設内での虐待防止に努めている。また、会社側からも職員の心のケアにも注意を払うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を受けていた入居者がおり、管理者も理解しており、必要があればアドバイスできるようにしている。	過去に、制度利用者がおられたので、管理者は、制度について理解し、契約時に資料やパンフレットを用意し、利用者や家族に説明をしている。利用者や家族から制度について、問い合わせがあった時、何時でも内容や、申請手続きについて説明し、関係窓口へ橋渡し出来る体制が整っている。また、勉強会を開き、職員全員が理解している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者とケアマネが時間をかけて十分な説明をし、理解して頂いていると信じている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と密にメールで近況報告をする機会が多くなり意見や要望を運営推進会議で議題の一つに挙げる事もあり、十分に運営に活かしている。	面会や行事参加時に、家族と話す機会を設け、利用者の生活状況や健康状態を報告し、家族の意見や要望を聴き取っている。話す機会の少ない家族とは、メールや電話で話し合い、意見や要望を聴き取り、出された意見は、関係者で検討し、業務改善や介護計画に反映出来るように努力している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談等、自由に発言できる環境をつくり、働きやすい職場作りに反映させている。	ミーティングや勉強会を、勤務時間内に数回に分けて実施し、全員が内容を周知した上で情報を共有し、職員間のチーム介護に取り組んでいる。また、毎日の申し送り時に、職員の気付きや心配事等を話し合い、管理者と職員が日々の情報を共有し、実践に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の長所を理解し、発揮できる職場環境に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	今の職員と共に協力し、尚且つ、個々の個性も生き生きと発揮できるように努力している。	職員の採用は、年齢や性別の制限はなく、人柄や、やる気を優先している。職員休憩室を用意し、交代で休憩を取り、希望休や勤務時間も柔軟に配慮し、職員の特長を管理者が把握し、役割分担を決め、職員が生き生きと、働きやすい職場環境に取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身近なテーマで勉強会を行い、リアルタイムで質問にも応じている。	勉強会や申し送り時に、マニュアルや新聞記事の事例を参考にして、利用者の人権を尊重し、言葉遣いに気をつけた対応を、職員間で話し合い、利用者への尊厳を守る介護について検討し、利用者が、安心して落ち着いて暮らせる、介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者とケアマネが色々な研修を受け、それを職場にもいかしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は他の同業者との繋がりもあり、管理者・ケアマネとの情報共有にも援助してくれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで管理者・ケアマネが面談を重ね、不安なく入居できるように努力している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望を尋ね、安心して頂けるように努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態をよく伺い、主治医とも相談し、必要とされるサービスを見極め対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の何気ない会話にも耳を傾け介護にいかしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は個々の入居者様のご家族との関係も十分把握しており、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、家族にくれぐれもお願いするところであり、協力してもらっている。	利用者の入居年数が長くなると、重度化も進み、友人、知人の面会も少なくなるので、家族にお願いし、出来るだけ色々な方に、来訪してもらい、利用者が、長年培ってきた、人間関係や、地域社会との関係の継続の支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に皆さんがリビングにおられ、会話を楽しんでおられ、職員は会話に支障がないように関わっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者がご家族との関係をつないでおり、要望があれば相談等に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が個別に散歩にでかけ、困った事が無いか尋ね、それを職員間で共有し、希望・意向の把握に努めている。	散歩や入浴は、利用者と職員が一对一で、ゆっくりと話せる時間として大切に、職員は利用者の思いや意向を聴き取り、家族と相談し、実現に向けて取り組んでいる。意向表出の出来ない利用者には、職員が寄り添い、話しかけ、利用者の表情や独り言から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報及び家族からのヒアリングを十分に行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じ、カンファを行い、個々の状態を把握している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の状態に応じ、家族及び医療機関と連携を図り、プランの見直しを行っている。	利用者や家族の、意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、目標計画を見直し、介護計画を定期的に作成している。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画をその都度、見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察を個別記録し、介護計画の見直しの参考にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人及びご家族の要望にこたえられるように柔軟な対応をしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の個々の能力に応じて職員と共に清掃活動等楽しみながら行っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科週1回、内科月2回の往診を受けており、24時間医療連携も行っている。利用者や医師との関係も良好で往診日を楽しみにしている。	協力医療機関による月2回の往診により、利用者の一寸した状態変化にも主治医が対応し、看護師と介護職員の連携で、24時間安心して暮らせる、医療連携体制が整っている。また、利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援も行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の日常の情報を看護師に伝えており、アドバイスや日々の健康管理に活かしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関及びご家族と密に連携を図り、早期退院できるように努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも行っており、ご家族とは早い段階で意思確認を慎重に行っている。	看取りについては、契約時に、利用者や家族に説明し、ホームで出来る支援について理解を得ている。利用者の重度化が進む中、協力医療機関の主治医による、きめ細かな往診が出来るので、条件整備が整えば、職員の頑張り、看取り支援に取り組む体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてず自信を持って対応できるように日々備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防及び地域の方々の協力で施設火災時近隣火災時の対応を決めている。	消防署の協力と指導を得て、年2回の避難訓練を実施し、火元を設定し、2階の6人の利用者をベランダに誘導し、消防車の救出を待つ体制と、1階の3人の利用者は、庭に誘導し、地域の方に見守りをしてもらう、協力体制を築いている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮し、対応している。	職員は、利用者を、経験豊富な人生の先輩として敬愛し、学ぶことも多く、家族のような関係で、節度を持って介護の実践に取り組み、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、優しく声かけをし、利用者の尊厳を守る取り組みをしている。また、利用者の個人記録の保管と、職員の守秘義務についても、周知徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各々のくらしのペースで、1日を楽しんでいただいている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度カットに外から来て頂き好みのカットをして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗い物の片付け等、職員と一緒にしている。	利用者の楽しみにしている食事は、調理上手な職員が、利用者の嗜好を聞き取り、メニューに採り入れ、利用者にも味見や簡単な盛り付け、後片付けを手伝って頂き、利用者と職員が、同じテーブルで食事をし、賑やかな会話の中で、作る喜びと、食べる楽しみを味わいながらの食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量・水分量共に日々管理しており、その方にあつた支援を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と相談しながら、個々のケアをしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや促しにより失敗なく安心して排泄ができるように支援している。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに、合わせた声かけや、さりげないトイレ誘導を行い、失敗の少ない、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、医師の指示に沿ったケアを行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	個々のその日の体調を管理し、十分支援している。また、血流の悪い方には、毎日足浴も行っている。	一日おきに入浴を実施し、利用者の健康状態や気分を優先し、時間の変更や日にちを変更し、柚子湯や菖蒲湯、香りの良い入浴剤を使い、利用者が楽しく入浴出来るように努力している。入浴を拒む利用者には、時間をおいて、職員が代わって、タイミングを見て声かけし、無理のない入浴支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的及び注意点を把握できるように薬名・効能をカルテに記載している。また、食事等で服薬量の軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを把握し、支援している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気のいい日には、個別に散歩等にて出かけたり、車で季節が感じられるところに出かけたりしている。	天気の良い日を活用し、散歩や買い物、二匹の愛犬を連れて町内を回り、利用者の気分転換に、ドライブレクを採り入れている。また、家族の協力で、自宅に連れて帰ってもらい、利用者の生きがいに繋がる、外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に必要な物があるとき、職員と共に買い物に行き、自分で選ぶ楽しみも支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分支援している。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存住宅を利用している為、見慣れた空間であり、庭もあるので季節感も十分に感じていると思う。	民家を改築したホームは、家庭的な自宅で暮らす感覚の中で、利用者が集まるリビングルームは、気の合う利用者同士の会話が弾み、職員と作品作りに取り組む利用者の生き活きとした表情は、家族の驚きと、喜びに包まれている。また、音や照明、温度や湿度、臭いにも配慮し、清潔で居心地の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何度か座る場所を変えたりして気分転換できるようにしている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と十分に相談し、工夫している。	利用者が使い慣れた、筆筒や机、布団や鏡、家族の写真や、生活必需品等を持ち込んで、レイアウトしてもらい、自宅と違和感のない雰囲気の中で、利用者が安心して生活していける、居心地の良い居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し、日々自立した生活が送れるよう心がけている。		